

# 平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	消防本部 消防課					
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-1 災害や犯罪に備える地域づくり				
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	消防・救急活動事業(No.55)				
予算等事業名	火災予防活動経費							
目的	消防・救急救助活動業務の高度化に伴い、円滑な活動と事業の充実を図り、安全・安心の町づくりを進める。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主防災組織の初期消火・救助技能の向上(制度整備)</li> <li>・民間事業所と連携した高齢者住宅防火指導の実施</li> <li>・違反防火対象物の公表制度の導入の検討</li> </ul>							
根拠法令・条例等	消防法							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由	予算化は来年度が初年度となるため、事業効果検証・経費検証も再来年度以降となり、現状での検討は困難である。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由	来年度が事業の本格運用となるため、事業効果検証などは再来年度以降となり、現状での検討は困難である。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)		A
	<b>【説明】</b> 対象事業は、今年度策定の消防力の整備計画等に基づくものであり、進捗状況は、PDCAの「D」段階にあることから、計画に忠実に実施していく必要がある。		

## 総合評価

実績	民間事業所と連携した高齢者住宅防火指導の実施(9/20高齢者訪問介護事業所職員向け講習会開催) 違反公表制度の導入(1/26湘南地区予防部会で湘南地区市町の導入状況調査) 防火ポスターコンクールによる少年期の防火思想啓発(町内児童694名応募)		
中間評価との相違点	特になし(昨年度に引き続きPDCAの「D」段階としての取り組みを行う。)		
事業指標(数値指標)	訪問介護士による防火診断回数等		
中期(28年度)目標値	10(上記防火診断回数)		<b>【目標値の根拠または数値で表わせない指標】</b>
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	0	-	-
<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問介護士等が防火診断を行った実数。</li> <li>・自主防災事業及び違反公表制度事業等については、制度整備又は制度導入が指標となる。</li> </ul>			

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		80	79				
財源内訳	一般財源	80	79				
	国庫支出金	0	0				
	県支出金	0	0				
	その他	0	0				

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 事業対象(受益者)が町内の居住者及び在勤者など広範囲かつ不特定に及ぶ事業である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	B
	【説明】 消防機関の専門性と求心力が事業の原動力のため、町主体が原則だが、一部外郭団体等との共催等が可能である。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 住宅防火事業に対する町民理解をさらに促す必要がある。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 官民連携などにより、町の費用負担削減を図っている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 事業効果は、着々と町内に根付きつつある。消防力の整備実行計画に掲げられた事業を適切に推進することで、さらなる防火安全体制の強化が見込める。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	火災による高齢者の死傷事故防止を推進する。 重大な消防法令違反の早期是正を図る。 火災予防施策全般(特に住宅防火思想の普及)に対する町民理解を促進する。 官民連携体制をさらに強化する。 吾妻山の観光活性化に伴い、登山者に対する防火指導を強化する。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	本事業は、町民に対して火災予防の重要性を認識させ、消防法の目的である“火災による被害の軽減”を達成しようとするほか、“火災による被害者を一人も出さない”ために重要であることから、家庭及び事業所の自助力を意識面から強化しようとするもので「安全・減災都市二宮」づくりには欠くことができず、消防機関の主導でなければ達成困難な事業です。		
今後の方向性	一般家庭の防火対策を強化するため、住宅用火災警報器の全戸設置を目指すとともに、年少期からの防火教育の方策を検討する。 町内の事業所との連携を強化し、法令違反の撲滅と有事の際の初動体制確保、また初期消火及び避難誘導の訓練指導に注力し、防火診断の実績に繋がるようにする。		

# 平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	消防本部 消防課					
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-1 災害や犯罪に備える地域づくり				
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	消防・救急活動事業 (No.55)				
予算等事業名	消防職・団体教育推進事業							
目的	消防・救急救助活動業務の高度化に伴い、円滑な活動と事業の充実を図り、安全・安心の町づくりを進める。							
内容	・消防職・団員教育計画の策定に向けた検討							
根拠法令・条例等								
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		経験豊富な消防職団員による指導で経費計上がない。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		消防職団員の教育は、年間計画に基づき実施しており効率化は困難である。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 消防職団員の若年化で経験が不足していることから、継続的に事業を続け推進する必要がある。			

## 総合評価

実績	神奈川県消防学校で開催される初任教育、専科教育(火災調査科、救助科、救急救命士教育)に職員派遣を行った。また、救助資機材取扱い講習として、玉掛け、クレーン技能講習、ウインチ技能講習、酸欠・硫化水素作業主任技能講習に職員派遣を行った。				
中間評価との相違点	なし				
事業指標(数値指標)	受講者数				
中期(28年度)目標値	45			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	・消防職・団員が専科教育や研修を受講した人数。	
	14	—	—		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		1,272	714				
財源内訳	一般財源	1,272	714				
	国庫支出金	0	0				
	県支出金	0	0				
	その他	0	0				

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 神奈川県消防学校や消防大学で行われる専科教育を受講するのは必要不可欠であると考えます。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 消防職特有の教育であるため、町が主体で行わなければならない。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 専門的な知識を取得し、各種災害への対応力が向上している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	B
	【説明】 知識と技能を有した職員が署内での研修講師を務めることで管内の情勢にあった教育ができる。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 中間に評価と同様に消防職団員の若年化で経験が不足していることから、継続的に事業を続け推進する必要がある。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	継続的に教育派遣を行い、消防職・団員の知識、技術の向上を行います。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	複雑かつ多様化する災害に対応するためには組織や資機材の整備のほかに、災害に直接向き合う消防職・団員の資質向上を目的とする教育訓練が必要です。		
今後の方向性	世代交代により若年齢化が進む傾向にあるため、教育計画には教育機関での最新の知見による専門教育に地域にあった所属教育を加え消防職・団員の教育を実施します。		

# 平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	消防本部 消防署					
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-1 災害や犯罪に備える地域づくり				
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	消防・救急活動事業(No.55)				
予算等事業名	応急手当普及活動事業							
目的	消防・救急救助活動業務の高度化に伴い、円滑な活動と事業の充実を図り、安全・安心の町づくりを進める。							
内容	・民間応急手当普及員の養成(要綱作成)							
根拠法令・条例等	消防庁「応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要綱」 「二宮町応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要綱」							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		応急手当普及員の養成に関し、特別な経費はない。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		今年度に要綱を作成、来年度より養成を開始する計画である。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)		A
	【説明】 本事業の推進により、より多くの救命講習修了者の育成が可能となると見込まれる。安全・安心の町づくりを目指す上で、その一助たり得る事業であると思われる。		

## 総合評価

実績	民間応急手当普及員養成の要綱作成実施(継続中)			
中間評価との相違点	計画の進捗に遅延がみられ、平成28年度中に要綱を完成する計画であったが完成に至っていない。			
事業指標(数値指標)				
中期(28年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】			
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	要綱作成の段階のため目標値なし。 応急手当普及員の養成開始後は応急手当普及員数、 応急手当講習会の開催数が指標。
	0			

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		201	183				
財源内訳	一般財源	201	183				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 事業推進に当たり必要となる経費は極めて限定的なものであり、低コストで効果が見込まれる事業である。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 現状、普通救命講習は応急手当指導員の資格を持つ消防署員が中心となり指導をしている。応急手当普及員の養成についても同様に消防署員が行うことが妥当であると思われる。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	C
	【説明】 現時点では応急手当指導員の養成に関する要綱を作成を進めており、成果が上がる段階には至っていない。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 成果が上がる段階には至っていないため現時点では評価困難	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 <b>費用対効果は有効な事業であると思われる。今後、PDCAの中で課題の抽出・改善を図っていく。</b>	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	早期に応急手当普及員の養成に関する要綱を作成し、事業を推進する。 並行し、地域自主防災訓練や救急フェア等各種イベントや町ホームページ・SNS等を活用し応急手当講習のPRを行い、町民の応急手当に対する意識の向上を図る。	

◎評価者[担当主管課長]

<input type="checkbox"/> ① 現状維持 <input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input checked="" type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止	
理由	応急手当指導員を養成し、救命講習の普及を図り住民による救命を強化する。
今後の方向性	応急手当普及指導員養成要綱を作成し、応急手当普及指導員の養成を行い町民の応急手当に対する知識及び技術の向上を推進する。

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	消防本部 消防署
基本構想	交通環境と防災対策の向上	重点的方針	3-1 災害や犯罪に備える地域づくり
分野別方針	環境、防災	実施計画事業	消防・救急活動事業(No.55)
予算等事業名	緊急消防援助隊活動経費		
目的	消防・救急救助活動業務の高度化に伴い、円滑な活動と事業の充実を図り、安全・安心の町づくりを進める。		
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模災害発生時に神奈川県隊として迅速に出動(要請に応じ、出動)</li> <li>・消防受援計画の検討・策定</li> </ul>		
根拠法令・条例等	消防組織法・緊急消防援助隊に関する政令		
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか			
<input type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input checked="" type="checkbox"/>	② 計画より遅れている
<input type="checkbox"/>			③ 未実施
②、③に対する理由	新たに、二宮町消防力の整備実行計画(前記)作成により、受援計画については、平成30年までに検討して整備計画。		

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	計画的に備品整備が必要である。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	県が、「緊急消防援助隊神奈川県後方支援要領」を作成中により、今後、効率化が図られると考えられる。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)		A
	【説明】 大規模地震災害等の発生が危惧されているなかで、事業推進は必要であり、受援計画の作成は急務である。		

総合評価

実績	二宮町緊急消防援助隊受援計画(案)の策定を実施		
中間評価との相違点			
事業指標(数値指標)	消防受援計画の整備(1)		
中期(28年度)目標値	0		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	0		
素案作成の段階であるため			

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		0	0				
財源内訳	一般財源	0	0				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 大規模災害に対応することは町民の安心・安全に繋がるため、それに係る公費は必要不可欠と考	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 災害時には各課と密接な連携が必要な計画のため、主体となって作る必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	C
	【説明】 現時点では素案作成のみ。今後図上訓練等を行い計画の検証を実施する。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 計画策定自体の費用はかかっていない。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 引き続き大規模災害に備え、「計画」を完成させることが急務と考える。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	策定した素案に基づく図上訓練方法及び検証方法。 受援計画「応援部隊への支援」の中で、補給可能場所、食料品等物資の補給可能場所及び野営場所等の決定。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	緊急消防援助隊の受援活動を円滑にするため。		
今後の方向性	受援計画を作成し、大規模災害発生時に備える。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	消防本部 消防署	
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-1 災害や犯罪に備える地域づくり
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	消防・救急活動事業(No.55)
予算等事業名	救急救助活動経費			
目的	消防・救急救助活動業務の高度化に伴い、円滑な活動と事業の充実を図り、安全・安心の町づくりを進める。			
内容	・救急救助業務の充実に向けた検討			
根拠法令・条例等	消防組織法 消防法			
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		円滑な救急救助活動を実施するため、消耗品(酸素、医薬材料)などの経常経費が必要と思われる。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		住民が期待する災害対応をするため、最小限の予算にて運営をしているため、効率化は困難と思われる。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 複雑多様化する災害や救急活動に的確、迅速に対応するために充実強化は必要。			

総合評価

実績	増加傾向にある救急需要への対応。 救急救命士病院実習(就業前・就業後)を実施し的確な救急処置等の知識、技術の向上。 ビデオ喉頭鏡による気管挿管認定救急救命士2名増。			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)	消防・救急救助活動業務の高度化に伴い、円滑な活動と事業の充実を図り、安全・安心の町づくりを進めます。			
中期(28年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】			
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		4,942	4,498				
財源内訳	一般財源	4,942	4,498				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 災害対応や被害軽減、救急需要に対応するためには公費投入が妥当と考える。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 災害対応や被害軽減、救急需要に対応するためには公費投入が妥当と考える。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 複雑多様化する救急、消防、救助活動に適切に対処している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 消耗品や医薬品を有効活用するため適切に維持管理し経費増大を抑制している。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 適切な活動と円滑な事業の推進が図られている。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	高度な知識、技術を指導する指導救急救命士の養成。 救命処置拡大による研修や病院実習等の予算措置。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	救命の向上を推進して町民の安全・安心を図る。		
今後の方向性	複雑多様化する救急や救助等の現場活動において、円滑な活動ができるよう資機材の整備や病院実習、処置拡大等の研修を充実します。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	消防本部 消防署					
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-1 災害や犯罪に備える地域づくり				
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	消防・救急活動事業 (No.55)				
予算等事業名	警防活動経費							
目的	消防・救急救助活動業務の高度化に伴い、円滑な活動と事業の充実を図り、安全・安心の町づくりを進める。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気象観測装置を更新し、正確な気象情報を収集する(整備)</li> <li>・消防訓練施設の新規整備に向けた検討</li> <li>・消防部隊運用計画の作成に向けた検討</li> </ul>							
根拠法令・条例等	なし							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input checked="" type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由	消防訓練施設は、予算及び場所の選定で遅れている。				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由	消防力を維持するのに必要で最小限の経費です。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由	災害から住民生活の安心、安全を確保のため効率化がなされている。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 消防力を最大限に発揮し住民の生命、身体、財産を火災等の災害から守っている。				

総合評価

実績	住民による初期消火のため街頭消火器89本を更新整備した。共同消防指令センター運用に伴い気象観測装置を整備した。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)					
中期(28年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】 消防活動に必要な施設や設備の保守、維持管理を充実し災害に備える。				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		3,432	1,848				
財源内訳	一般財源	3,432	1,848				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 住民の生命、身体、財産を火災等の災害から守るために必要である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 町より管理されなければ人員及び施設、設備の維持ができない。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 災害や事故に対して住民サービス向上が図られ安心、安全に貢献している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 業務遂行に際して経費の節減を心がけ質の高い消防サービスの提供に努めている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 住民生活の安全、安心を確保するうえで適切に事業が行われている。	
今後の方針 (課題・意見を箇条書き)	今後発生が予測されている首都直下地震をはじめとする地震災害に備えるとともに、近年相次いで発生した集中豪雨、台風等の自然災害がもたらす被害を軽減するため先端技術を活用した新たな装備、資機材の整備が必要。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	消防業務の円滑な運用を実施して災害発生に備える。		
今後の方向性	消防活動に必要な施設及び設備の維持管理を継続して実施する。		

# 平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	消防本部 消防課					
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-1 災害や犯罪に備える地域づくり				
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	消防・救急活動事業 (No.55)				
予算等事業名	1市2町高機能消防指令センター整備・運用事業							
目的	消防・救急救助活動業務の高度化に伴い、円滑な活動と事業の充実を図り、安全・安心の町づくりを進める。							
内容	・消防指令業務の共同運用に向けた整備							
根拠法令・条例等	「1市2町消防指令業務の共同運用等検討委員会設置要綱」 「平塚市、大磯町及び二宮町消防通信指令事務協議会設置に関する協議書」							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		共同整備は経費の削減に繋がっているが、今後は維持管理経費の負担が必要である。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		共同指令センターの運用で施設及び職員の有効活用が見込まれる。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 平成29年4月より指令業務の共同運用が開始できるように共同指令センターを現在整備中で事業を推進しています。			

## 総合評価

実績	平成29年4月1日から指令業務の共同運用を開始するため消防指令システムの整備を行った。				
中間評価との相違点	平塚市新庁舎工事の遅延に伴い一部を平成29年度に繰り越して実施する。				
事業指標(数値指標)	会議回数				
中期(28年度)目標値	9			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	・協議会の開催数。 ・平成29年度以降は年2回の開催とした。	
	5	—	—		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		102,606	87,660				
財源内訳	一般財源						
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 指令業務は消防業務の根幹を成す業務である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 同上	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 共同整備したことで人員や財政の効率化が図られた。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 同上	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 最新式の指令台の導入と共同運用によって整備費が削減され現場到着時間の短縮に期待でき、指令業務の一元化により人員的効率化が図られたことで警防要員の増員や消防相互の応援体制の強化が図られる。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	共同運用の運営経費の効率化を図るとともに、消防本部の規模等によって部隊の運用方法等に違いがあるため、共同運用を進める中で認識の共有化を図る。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	広域行政による効率化業務のひとつであり、整備費の大幅な削減ができ、単独整備では得られない高機能システムによって消防サービスを提供することができる。		
今後の方向性	消防指令業務の共同運用を推進して課題を検証し、経費の削減努力を継続するとともに、消防の広域連携をより発展させ、町民の安心・安全を確保する。		

# 平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	消防本部 消防署					
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-1 災害や犯罪に備える地域づくり				
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	消防・救急活動事業(No.55)				
予算等事業名	消防車両・救急車両・分団車両更新事業							
目的	消防・救急救助活動業務の高度化に伴い、円滑な活動と事業の充実を図り、安全・安心の町づくりを進める。							
内容	・消防車両(消防署)更新事業(仕様検討)							
根拠法令 ・条例等								
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input checked="" type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由	車両更新整備を計画しているが、当初計画より車両の更新が遅れている。				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	現在の消防力を維持するにあたり、削減は困難である。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	現在の消防力を維持するため、消防車両の更新は不可欠であり、今後も消防力の充実強化が必要である。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)		A
	【説明】	今後も長期的視野のもと、計画的に車両更新が必要である。	

## 総合評価

実績	平成29年度の消防ポンプ自動車更新に向けて、仕様の検討を行った。		
中間評価との相違点			
事業指標(数値指標)	各種		
中期(28年度)目標値	仕様検討		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成29年度の消防ポンプ自動車更新に向けて、仕様の検討を行った。
	1		

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		3,975	3,478				
財源内訳	一般財源	3,975	3,478				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 消防力の維持には公費の投入が必要不可欠である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 民間企業による事務委託は困難なため、町が主体となり実施する必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 平成29年度に消防ポンプ自動車の更新を予定している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 現有資機材の継続的な使用を考慮し、仕様を検討した。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 消防力の充実強化のためには、今後も計画的に車両の更新をしていく必要がある。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	計画的に車両の更新をしていくとともに、免許制度の改正を考慮しつつ仕様を検討する必要があります。	

◎評価者[担当主管課長]

<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input checked="" type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	消防力の整備指針をもとに、消防車両の充実強化を推進する必要があります。		
今後の方向性	計画的に順次車両の更新整備を行い、消防力を維持していきます。		

# 平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	消防本部 消防課					
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-1 災害や犯罪に備える地域づくり				
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	消防・救急活動事業 (No.55)				
予算等事業名	分団施設維持管理・整備事業							
目的	消防・救急救助活動業務の高度化に伴い、円滑な活動と事業の充実を図り、安全・安心の町づくりを進める。							
内容	・消防団活動拠点の整備拡充を図る(第2、第4分団整備検討)							
根拠法令・条例等								
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由	必要最低限の予算計上です。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由	詰所の再配置や再整備で地域の拠点拡充を図る。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】	老朽化している施設の修繕を実施し、再整備の方向性を検討します。		

## 総合評価

実績	第2、第4、第5分団の詰所で修繕を実施。				
中間評価との相違点	なし				
事業指標(数値指標)	地域の防災力				
中期(28年度)目標値	-			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	施設や設備を充実し、人的対応力の向上により防災力が向上する。	
	-	-	-		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		200	86				
財源内訳	一般財源	200	86				
	国庫支出金	0	0				
	県支出金	0	0				
	その他	0	0				

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 地域の消防団活動の拠点となる詰所整備は、公費からの支出が妥当な事業です。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 地域の安全を守る拠点の整備事業のため、町が主体となって実施する必要があります。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 十分成果はあがっていると考えます。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 施設の有効活用を実施しているため、適切な成果をあげている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 老朽化している施設の再整備を検討し引き続き事業を推進します。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	適正な維持管理を行い老朽化や耐震補強がされていない第2、第4、第5分団詰所の維持管理計画を作成し、充実を図る必要がある。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	想定される大規模災害等に備えるため、各分団施設の充実強化を図る必要がある。		
今後の方向性	二宮町公共施設等総合管理計画(平成29年3月)に基き、施設の維持管理計画を策定し計画的に修繕又は更新する。		

# 平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	消防本部 消防課					
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-1 災害や犯罪に備える地域づくり				
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	消防・救急活動事業 (No.55)				
予算等事業名	消防団体制強化・再整備事業							
目的	消防・救急救助活動業務の高度化に伴い、円滑な活動と事業の充実を図り、安全・安心の町づくりを進める。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>魅力ある消防団づくりに向けた検討</li> <li>機能別消防団員制度の検討</li> </ul>							
根拠法令・条例等								
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施		
②、③に対する理由									

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難					
理由		円滑な活動を推進するため経費の削減は困難と考えます。							

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難					
理由		検討協議は継続していく。							

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)					A
	<b>【説明】</b> 新基準活動服や防火衣、安全装備品、機能別部隊用の資機材等の整備を強化し、長期的に事業の推進を実施する。					

## 総合評価

実績	団幹部による会議を年8回開催し団運営や各種訓練の検討を実施した。 防火衣、安全装備(ケブラー手袋、ゴーグル等)を整備した。 「かながわ消防団員応援の店」登録制度に伴い全分団員に「消防団員・家族カード」を配布した。				
中間評価との相違点	なし				
事業指標(数値指標)	団幹部会議回数				
中期(28年度)目標値	24			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	消防団員の被服や安全装備の更新と補充や、福利厚生について検討して団活動を充実する。	
	8	—	—		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		1,325	1,247				
財源内訳	一般財源	663	175				
	国庫支出金						
	県支出金	662	173				
	その他		899				

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 安全・安心まちづくりの観点より、装備を充実し円滑な活動が望まれるため、妥当である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 魅力ある消防団づくり、機能別消防団共に町が主体となる必要があると考える。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 「消防団員・家族カード」の配布や装備の整備等徐々に成果は上がっているが十分とは言えない。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 県の補助金や要領等に準じて成果をあげることができた。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 消防団の積極的な活動を持続するため、引き続き事業を推進する。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	団幹部及び各分団員から検討委員を選出し、地域の特性に則した消防団の活動を見極め、資機材や装備等の整備を実施する。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持 <input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止	
理由	消防団中核法の制定から県による「消防団員・家族カード」の制度化など各機関で消防団の充実強化策が進められている。
今後の方向性	消防力の整備実行計画に基づき消防団の確保と、社会情勢の変化に即した消防団の在り方を消防団員と検討する。また、消防団の安全装備品は補助制度を活用し計画的に整備・更新を行う。

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	消防本部 消防課					
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-2 公共施設の総合的マネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり				
分野別方針	自治体経営		実施計画事業	公有財産管理運営事業(No.91)				
予算等事業名	消防庁舎維持管理経費							
目的	公共施設の適切かつ効果的な管理と再配置、及び、行財政運営の効率化による経費の重点配分。							
内容	・施設運営と管理に係る経費							
根拠法令・条例等	建築物の維持管理に関する各種法令							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由		庁舎環境維持のため必要な最低限の予算計上です。						

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由		これ以上の効率化は環境維持が図れない。						

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)					A
	【説明】 庁舎竣工から年数が経過し、随所に不具合があることから計画的に改修が必要です。					

総合評価

実績	非常用電源設備の修繕、消防課事務所のブラインド修繕等、計画に沿って実施しました。				
中間評価との相違点	なし				
事業指標(数値指標)	消防委員会開催回数				
中期(28年度)目標値	3			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	消防庁舎を快適に執務できるよう消防委員会などの改善意見を取り入れて、保守点検や修繕等を実施する。	
	1				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		200	198				
財源内訳	一般財源	200	198				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 設備の点検を定期的に行うことにより庁舎の長寿命化が見込まれる。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 消防庁舎は町の公共施設である。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 消防職委員会で挙げられた要望についても可能な限り対応し、職場環境の改善に努めています。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 清掃作業は職員で実施している。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 消防庁舎の環境を計画的な修繕や改修で整備する。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	平成10年度から平成11年度に増築及び耐震補強は実施済みである。 竣工後40年が経過して施設周辺に地盤沈下による不具合が見受けられる。 外壁の修繕とともに排水管の洗浄対策が必要である。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持 <input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止	
理由	風水害や想定される大規模災害等に備えるため、消防組織の拠点となる消防庁舎の改善や改修を行う必要がある。
今後の方向性	再配置に関する基本方針により、施設の維持管理計画を策定し計画的に実施する。

# 平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	消防本部 消防課					
基本構想	戦略的行政運営		重点的方針	3-2 公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり				
分野別方針	自治体経営		実施計画事業	広域行政推進事業(No.93)				
予算等事業名	消防広域化への取組み							
目的	広域的な行政施策や取組みを必要とする行政課題等の情報交換及び連絡調整を図り、広域行政を推進する。							
内容	・平塚市及び大磯町との検討							
根拠法令・条例等	—							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		継続して諸課題を協議検討中。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		経費は発生していないので削減は困難である。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 消防の広域化で災害への機能強化が図られるよう1市2町で検討を進めている。			

## 総合評価

実績	平塚市、大磯町及び二宮町の1市2町における消防広域化の是非を判断することを目的に影響事項の調査・分析を行うため、組織体制や経費などの分野別に5つの作業部会報告書及びそれらを取りまとめた検討委員会報告書を作成し、役場関係部署に報告を行った。				
中間評価との相違点	当初予定していた資料作りについては完了したが1市2町の首長判断を平成28年度中にできなかった。				
事業指標(数値指標)	会議回数				
中期(28年度)目標値	6			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	・検討委員会は、平成29～30の各年度において作業方針の確認と報告の2回。首長会議は2箇年で1回を計上。	
	1				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		0	0				
財源内訳	一般財源						
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 持続的な消防サービスの提供と多様化及び大規模化する災害に的確に対応する必要がある。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 消防サービスの提供は消防組織法で定めている自治体の責務であるため。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 消防を主体とした検討態勢では自治体としての総合的な検討として十分とは言えない。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	B
	【説明】 広域化の検討の消防体制と必要経費については第三者による知見を必要とする。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 消防を主体とした検討態勢では、現場活動に主眼を置いた消防体制を構築する傾向にあり、必要経費の試算結果の高騰を招いている。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	将来の消防サービスの需要、大規模災害時等の対応を考える必要がある。 広域化の方式(業務委託の内容)によっては、消防サービスの低下(救急車の到着時間の延伸など)を招くおそれがあるため、住民の理解が必要となる。 単独消防では消防力の整備指針どおりの消防力を確保することは難しいので消防の広域化を含め幅広く検討する必要がある。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	少子高齢化による社会的環境の変化とともに消防サービスの需要と供給のバランスも変化するので、将来の消防の姿を踏まえ、住民の生命・身体・財産を守るという消防の任務を果たすため、消防力の充実強化のための広域連携の方法について継続して十分な検討を行う必要があります。		
今後の方向性	1市2町の消防指令業務の共同運用の運営状況を検証して、広域化に繋がる成果を見出す継続的な検討を行う。		